

公益社団法人 東京生薬協会

平成 30 年度

(2018年4月1日~2019年3月31日)

事業報告書、計算書類

令和元年6月18日

I 平成 30 年度 事業報告

■ 1号事業 生薬、薬用植物等の普及啓発に関わる活動（その1）

生薬、薬用植物に関する知識や情報の啓発により、国民の健康増進に寄与する事業を実施した。

1) 薬草観察会 (学術委員会)

① 春の薬草観察会

- ・開催日：平成 30 年 4 月 15 日（日）10:00～15:00
- ・場 所：青梅丘陵
- ・講 師：和田 浩志、磯田 進、南雲清二、鈴木幸子(敬称略)
- ・参加者：雨のため中止

② 秋の薬草観察会

- ・開催日：平成 30 年 10 月 14 日（日）10:00～15:00
- ・場 所：青梅丘陵
- ・講 師：和田 浩志、磯田 進、南雲清二、鈴木幸子(敬称略)
- ・参加者：53 名
- ・参加費：無料（保険料 100 円）

2) 薬草収穫感謝の会 (総務委員会)

- ・共 催：東京都、(公社)東京生薬協会、(公社)東京薬事協会、(公社)東京都薬剤師会、本町生薬会
- ・開催日：平成 30 年 11 月 10 日（土）10:00～15:00
- ・場 所：東京都薬用植物園
- ・講 師：渡辺 謹三先生（東京生薬協会監事）
- ・演 題：OTC 医薬品とセルフメディケーション
- ・参加者：132 名受講
- ・植物園見学参加者：85 名
- ・入園者：1,204 名（対前年比 109%）
- ・記念品配布者数：300 名(花の苗 300 鉢、お土産袋 300 袋)

3) 第 34 回 生薬に関する懇談会の開催 (学術委員会)

市場に流通する主要生薬について、基原植物、栽培、流通、品質、薬理、臨床などの多面的な視点から研究報告や意見交換を行う場として、産学協同で開催した。

- ・共 催：日本生薬学会関東支部、公益社団法人東京生薬協会
- ・開催日：平成 30 年 12 月 2 日（日）12:55～18:15
- ・会 場：北里大学薬学部
- ・テーマ：細辛（サイシン）
- ・参加人数：291 名(対前年比 114%)
- ・参加費：3,000 円、懇親会費：2,000 円

4) 薬用植物・生薬に関する講座

(学術委員会)

会員及び国民を対象に、薬用植物や生薬に対する基本的知識を提供することにより、薬用植物・生薬、薬用植物園などに幅広く興味をもってもらえるよう、開催した。

- ・テーマ：生薬・漢方からのセルフメディケーション
- ・開催日：平成30年8月～平成30年12月の日曜日（5回シリーズ）
- ・参加費：1回2,500円 ・参加者合計346名(対前年比106%)

開催日	12:30～14:00	14:15～15:45	参加者数
【第1回】 8月26日(日)	漢方処方に使われる薬用植物についてⅢ 東京理科大学薬学部 准教授 和田 浩志 先生	セルフメディケーションと生薬製剤 日本大学 名誉教授 安川 憲 先生	78
【第2回】 9月30日(日)	日本の伝統薬とセルフメディケーション 救心製薬株式会社研究開発部門・取締役 須藤 慶一 先生	女性が若々しく生きる漢方 ヨシコクリニック 院長 高木 嘉子 先生	57
【第3回】 10月28日(日)	生薬のチカラは漢方のチカラ 昭和大学薬学部 教授 川添 和義 先生	セルフケア 良質な睡眠の為の漢方 青山杵渕クリニック 院長 杵渕 彰 先生	72
【第4回】 11月25日(日)	薬方の配合について 医療法人社団金匱会診療所 顧問 小根山 隆祥 先生	人々を救ってきた薬用植物 星薬科大学 名誉教授 南雲 清二 先生	62
【第5回】 12月16日(日)	補剤の上手な使い方 東海大学医学部 教授 新井 信 先生	中高年が長期間常用する漢方処方 医療法人社団 金匱会診療所 所長 山田 享弘 先生	77

5) OTC医薬品とセルフメディケーションの啓発活動

(事務局)

- ・主催：(公社)東京生薬協会、(公社)東京薬事協会、(公社)東京都薬剤師会、
日本OTC医薬品協会、日本家庭薬協会
(公社)東京都医薬品登録販売者協会
- ・後援：厚生労働省、東京都、日本商工会議所、日本薬科大学
- ・開催日：平成30年10月19日(金)～20日(土)
- ・会場：(第1会場)福徳の森、(第2会場)江戸桜道り地下歩道
- ・出展社：32社
- ・内容：出展企業ブースコーナー/模擬薬店コーナー/「e健康ショップ」コーナー/
セルフメディケーションデータベースセンター/お薬相談コーナー/
企業プレゼン・アンケートコーナー/出展企業CM上映/スタンプラリー/
懐かしいくすり展/健康チェックコーナー/調剤体験コーナー
- ・入場者：約10,000人(推定)

6) 会報の発行 (7月、1月)

(広報委員会)

- ・生薬や薬用植物に関する最新情報や薬用植物園に関する情報を提供し、また協会の活動状況をお知らせするために年2回発行し、会員及び大学、関係団体等へ配布した。
- ・発行部数：450部

7) 協会ホームページの更新

(広報委員会)

- ・ホームページでの「お花の見頃情報」や「最新イベント情報」「薬用植物国内栽培事業」などを随時更新した。
- ・協会に関する基本情報についても更新した。
- ・「新常用和漢薬集」は8生薬を新規掲載し、139生薬を公開した。
また、難解用語26語を追加掲載した。

・ホームページへのアクセス状況

期 間	訪問数	ユーザ数	ページビュー数
2017/04/01-2017/09/30	71,482	47,648	166,499
2017/10/01-2018/03/31	52,431	35,080	118,434
2017(平成29年)年度合計	123,913	82,728	284,933
2018/04/01-2018/09/30	120,143	80,344	269,370
2018/10/01-2019/03/31	169,214	121,107	339,706
2018(平成30年)年度合計	289,357	201,451	609,076
下期 前年同期比	322.7%	345.2%	286.8%
年間 対前年比	233.5%	243.5%	213.8%

8) ふれあいガーデン事業(参加者合計:408名)

(事業管理委員会)

東京都薬用植物園ふれあいガーデンの実施

- ・平成30年度は、薬用植物園のサービス向上を目的として、「東京都薬用植物園ふれあいガーデン共同事業体」(公社)東京生薬協会、(公社)東京薬事協会、北部緑地(株)の3者共同事業体にて、園内400㎡を対象に薬用植物に関連した事業(下記のイベント等)を実施した。

	開催日	テーマ	講師(敬称略)	参加者数
4月	7日(土)	春 いのちの薬膳	近藤 美春	58
	14日(土)	エイプリル・ハーブ	小泉 美智子	29
	21日(土)	薬草の小さなガーデン	池村 国弘	46
5月	26日(土)	マジカルグリーン・リース	田淵 清美	28
6月	2日(土)	夏 爽やか薬膳	近藤 美春	40
	16日(土)	暮らしの中の香り アロマ	鈴木 悦子	25
7月	7日(土)	夏はハーブとともに	小泉 美智子	17

10月	6日(土)	秋を染める	山 浩美	28
	20日(土)	楽しいファミリーアレンジ	田淵 清美	30
11月	3日(土)	落語に見る食の風景 その3	一升亭吞介	49
	17日(土)	冷えとあったか手湯	小根山隆祥	19
	24日(土)	薬膳 冬来たりなば	近藤 美春	39

9) 新常用和漢薬集の改訂

(学術委員会)

ホームページ上の新常用和漢薬集に掲載されている生薬を日本薬局方(17局)と照合する作業を実施し、改訂作業を実施した。

8品目追加し、公開品目数は、139生薬となった。

■ 1号事業 生薬、薬用植物等の普及啓発に関わる活動(その2)

【東京都薬用植物園受託事業】

(事業管理委員会)

東京都薬用植物園の管理事業の全面委託に伴い、今までの実績を生かして薬用植物や生薬に対する知識・情報を国民に対し正しく普及し啓発する活動を積極的に実施した。

1) 東京都薬用植物園の事業管理

(1) 東京都薬用植物園の総合案内を行った。

窓口対応：開園時間帯における来園者対応：997件

電話対応：開園時間帯における電話等照会対応：1,023件

園内管理：土、日、祝日対応：115日

年間来園者数：123,779人(対前年比96.83%)

(2) 栽培補助業務(標本栽培区、温室、育苗その他)：延べ1,471人/年

(3) 調査研究、鑑定、鑑別補助作業(ケシ、アサ、サボテン類、違法ドラッグ、トウゴマ等農作業補助、データ整理、文献調査、計測等の補助業務)：

延べ521人/年

(4) 普及啓発事業(詳細は各項)：34日間実施、参加者数：2,266名

協会の応援人数延べ：44人

(5) 印刷物等作成

植物園案内パンフレット	10,000部
写真で見る絶滅危惧種植物	5,000部
「四季の薬草」パンフレット	5,000部
ケシ鑑別マニュアル	0部
種子交換リスト	200部
講習会等の参加者用資料、掲示用ポスター類	2,445部
野外展示用ラベル及び立て札	91枚
ケシ講座他	2,000部

(6) 東京都薬用植物園建物・施設の管理

保守点検：冷暖房、防火設備、ボイラー、電気設備、給水タンク、温室等

栽培管理：沿道植栽樹木、病害虫駆除、通路の草刈等

清掃：薬事資料館、研修室、標本室、トイレ、廃棄物の処理等

警備：薬事資料館、研修室、収納舎、ケシ・アサ栽培区等

2) 普及啓発・研修業務

(1) 薬草教室の開催（会場：東京都薬用植物園）

薬草教室を年間8回実施した。合計参加者：902名（対前年比113.3%）

来園者数：4,865名（対前年比125.6%）

	開催日	講演内容	講師(敬称略) (所属)	参加者数	来園者数
1回	4月17日(火)	虫と植物の不思議な関係	多々良明夫(法政大学教授)	128	537
2回	5月16日(水)	世界の植物園	御影雅幸(東京農業大学 教授)	149	1,195
3回	6月21日(木)	江戸の薬草園を巡る	南雲清二(星薬科大学名誉教授)	88	527
4回	7月19日(木)	江戸の園芸植物 蓮	石川祐星(東大農学生命科学研究所)	92	295
5回	8月21日(火)	貝原益軒ってどんな人 養生訓ってどんな本	山内 盛(東京生薬協会学術委員長)	126	489
6回	9月11日(火)	和服文様における植物の話	加藤寛司(染色作家)	91	578
7回	10月10日(水)	中高年からの漢方健康法	新井 信(東海大学医学部教授)	102	629
8回	11月15日(木)	風邪・インフルエンザを漢方はどう治す	大野修嗣(大野クリニック院長)	126	615

(2) 薬草観察会の開催（講師：東京都薬用植物園職員）

① 春の薬草観察会

平成30年 4月15日(日) 青梅丘陵 雨のため中止

② 秋の植物観察会

平成30年 10月14日(日) 青梅丘陵 53名

(3) 薬草の普及啓発講座（合計参加者：833名 対前年比91%）

平成30年度は以下のような薬用植物に関する普及啓発講座を実施した。

	開催日	テーマ	講師(敬称略)	協会	草屋舎	参加人数
4月	7日(土)	春 いのちの薬膳	近藤 美春		○	58
	14日(土)	エイプリル・ハーブ	小泉 美智子		○	29
	21日(土)	薬草の小さなガーデン	池村 国弘		○	46
5月	1日(火)~18日(金)	ケシのパネル展	展示	○		—
	5日(土)・6日(日)	ケシのミニ講座	薬用植物園職員	○		183
	26日(土)	マジカルグリーン・リース	田淵 清美		○	28
6月	2日(土)	夏 爽やか薬膳	近藤 美春		○	40
	16日(土)	暮らしの中の香り アロマ	鈴木 悦子		○	25
7月	7日(土)	夏はハーブとともに	小泉美智子		○	17

	22日(日)	薬草クイズラリー	東京生薬協会	○		64
8月	8日(水)	夏休み親子植物教室	中山麗子	○		27
10月	6日(土)	秋を染める	山 浩美		○	28
	20日(土)	楽しいファミリーアレンジ	田淵 清美		○	30
11月	3日(土)	落語に見る食の風景 その3	一升亭 吞介		○	49
	17日(土)	冷えとあったか手湯	小根山隆祥	○		19
	24日(土)	薬膳 冬来たりなば	近藤 美春	○		39
12月	11日(火)	木の実・草の実リース作り教室	中山 麗子		○	40
2月	8日(金)	健康講座	東京薬事協会と共催		○	111

(4) 研修業務の実施

東京都が主催する薬事監視員、警察、薬学生、医学生対象の研修会を補助した。

対 象	開催回数	対象者数
① ケシ特別講座	13回	806名
② 薬務、保健所等研修	6回	28名
③ 警察、薬防協等研修	38回	699名
④ 学生研修	6回	220名
⑤ 日本薬剤師研修センター漢方認定研修	2回	114名
⑥ 一般(団体)指導	4回	95名

3) 薬用植物の栽培

- ① 薬事監視業務の一環とし、ケシ、大麻の栽培補助、農作業補助を行った。
- ② ケシ、大麻以外の薬用植物の栽培管理、農作業全般を行った。

場 所：東京都薬用植物園

期 間：通年

4) 薬用植物の収集、保存及び展示

東京都職員の指示により行った。

- ① 種子交換：種子調整・整理、交換リスト作成、種子の受付発送を行った。
- ② さく葉作成：種の同定、さく葉の作成、リスト作成、保管整理を行った。
- ③ 生薬標本の作成：種の同定、標本作成、リスト作成、保管整理を行った。
- ④ 資料館に薬用植物の標本類の展示及びラベルの整備を行った。

5) 鑑定、鑑別補助

東京都職員が行う植物鑑定、鑑別試験のために必要な、文献調査、資料の提供及び鑑別用標本の購入保管を行った。

■ 2号事業 生薬、薬用植物等の栽培、育成等に関わる活動

1) 薬用植物栽培説明会の開催

(薬用植物国内栽培事業委員会)

- ① 開催日：平成30年7月24日(火)
場 所：新発田市
内 容：『GACP 解説』
講 師：小谷 宗司(信州大学特任教授)
参加者：10名
- ② 開催日：平成30年7月25日(水)
場 所：新潟市農業活性化研究センター
内 容：『GACP 解説』
講 師：小谷 宗司(信州大学特任教授)
参加者：18名

■ 3号事業 生薬資源等の基原・品質・薬理等の調査研究に関わる活動

1) 日本薬局方原案検討委員会に係る活動

(学術委員会)

- ① 生薬等(A)委員会：4月, 7月, 11月, 2月に開催、小栗氏・神本氏(ツムラ)が参加。生薬等(B)委員会：6月, 7月, 10月, 12月, 1月, 3月に開催、武田氏(ツムラ)が参加。各委員会の議事メモが学術委員会に報告され、試験法案の追試等の対応がなされた。
- ② 第十七改正日本薬局方第二追補、平成31年4月1日
改正に向けて、TLCによる確認試験改正等について情報提供した。
生薬等委員会査読会議(9月)：神本氏(ツムラ)が参加
- ③ 第十八改正日本薬局方、2021年4月1日予定
「PMDAのHPに下記の改正に係わる意見募集が発出された。改正案については確認試験(TLC法)等について、加盟会社で追試し、結果・意見を生薬等委員会に提示した。主な意見公募は下記のとおり。

[試薬・試液]

- ・液体クロマトグラフィー用エレウテロシド：シゴカの確認試験
- ・薄層クロマトグラフィー用シャゼンシ：スポット名称変更

[各条]

- ・カッコウ, リョウキョウ, レンニク：ラテン名
- ・ソウジュツ：基原
- ・サイシン, サンショウ(末), チョウジ(末), ロートエキス・アネスタミン散, シャゼンソウ, シュウヤク, ブクリョウ(末)：味の表記
- ・タンジン, リュウタン末, ニクズク, ロートコン：生薬の性状
- ・ガジュツ, サフラン, センキュウ(末), ソボク, サンヤク, クジン(末), チョウジ(末), チョウトウコウ：確認試験
- ・サフラン, ベラドンナコン：純度試験

- ④ 日本薬局方外生薬規格 2018、平成 30 年 12 月 14 日発出
武田・神本氏（ツムラ）が参加：WG 1 回（4 月）
本委員会 2 回（7 月、8 月【査読】）
- ⑤ 漢方処方原案作成WG
当協会として、JP17 以降の収載候補品目の全てについて審議に参加 6 月、8 月、
10 月、2 月に実施
嶋田氏（常磐植物化学研究所）、神本氏（ツムラ）が参加：4 回
- ⑥ その他
第 3 回日中薬局方（生薬等）検討会
日 時：平成 30 年 10 月 16 日
場 所：天津中医药大学（中華人民共和国天津市）
協会からは武田氏（ツムラ）が参加した。

2) 八峰町、基盤研、公益社団法人東京生薬協会栽培連携協定締結式 (事務局)

開催日：平成 30 年 6 月 1 日（金）～2 日（土）
場 所：秋田県八峰町役場会議室
参加者：7 名

3) 生薬栽培地視察と情報収集活動の実施 (事務局)

美郷町にて薬用植物栽培地の視察と記念植樹を実施した。

- ・開催日：平成 30 年 7 月 7 日（土）～8 日（日）
- ・見学地：記念植樹（ホオノキ植樹）、薬用植物栽培地見学
- ・交流会：薬用植物等の栽培地等の意見交換
- ・参加者：8 人

4) 薬用動植物国内栽培の実施 (薬用植物国内栽培事業委員会)

- ① 秋田県八峰町薬用植物試験栽培
試作品目：ウイキョウ、カミツレ、キキョウ、シャクヤク、セネガ、トウキ
- ② 秋田県美郷町薬用植物試験栽培
試作品目：カンゾウ、キキョウ、ノイバラ、ボウフウ、ホオノキ、センブリ
津蟹（チュウゴクモクスガニ）
- ③ 新潟県新発田市薬用植物試験栽培
試作品目：ミシマサイコ、ヤマトトウキ、ハッカ、シャクヤク、カンゾウ、
カワラヨモギ、オケラ、クロモジ、キキョウ
- ④ 新潟県新潟市薬用植物試験栽培
試作品目：ミシマサイコ、ヤマトトウキ、ハトムギ、エビスグサ、カラスビシャク、
ハッカ、シャクヤク、オケラ、カンゾウ、オタネニンジン、シソ、
カワラヨモギ、アミガサユリ、ジオウ、ジャノヒゲ、キキョウ、
オウレン、ハマボウフウ、コガネバナ、ヨロイグサ、ゴミシ

⑤ 福井県高浜町薬用植物試験栽培

試作品目：ミシマサイコ、ヤマトトウキ、ハトムギ、エビスグサ、シャクヤク、オケラ、ハマボウフウ、アミガサユリ、ジオウ、ジャノヒゲ、キキョウ、ゲンノショウコ、オウレン、ゴシュユ、コウホネ、カノコソウ、センブリ

⑥ 岐阜県岐阜市薬用植物試験栽培

試作品目：ミシマサイコ、ヤマトトウキ、ハトムギ、シャクヤク、オケラ、カワラヨモギ、アミガサユリ、ジオウ、ジャノヒゲ、キキョウ

⑦ 大分県杵築市薬用植物試験栽培

試作品目：ミシマサイコ、ヤマトトウキ、センキュウ、シャクヤク、カラスビシャク、オケラ、コガネバナ、カワラヨモギ、ジャノヒゲ、キキョウ、カノコソウ、ケイガイ、ハナスゲ、ベニバナ、サフランムラサキ、キバナオウギ、イカリソウ、ケイリンサイシン、メハジキ

4) 薬用植物栽培連携協定自治体との合同会議

(薬用植物国内栽培事業委員会)

① 第2回薬用植物栽培連携協定自治体との合同会議

- ・開催日：平成30年8月30日(木)～31日(金)
- ・連携協定を締結している全国7自治体の担当者33名と、協会からは会長を始め栽培指導員14名(合計47名)における合同会議を実施した。
- ・交流会：薬用植物等の栽培地としての可能性等の意見交換
- ・各自治体からは、収穫・加工機械類の紹介、データを多用した栽培管理、合理的な播種・育苗技術、病虫害対策、栽培組織、国や県の補助金の活用など多様な内容で報告がされ、意見交換がなされた。
- ・2日目は実際の栽培圃場の状況を見学した。
- ・参加者：協会側：14人(藤井会長、末次専務理事、栽培指導員)
自治体側：33人(八峰町、美郷町、新発田市、新潟市、岐阜市、高浜町、杵築市)

② キキョウ栽培に関する情報交換会議

- ・開催日：平成31年1月29日(火)
- ・連携協定を締結し、キキョウ栽培をしている全国6自治体の担当者16名と、協会からは会長を始め栽培指導員17名(合計33名)における会議を実施した。
- ・小谷委員長から『キキョウの標準的な栽培法について』の解説があり、各地区のキキョウ栽培状況報告(各自治体・生産者から現状と課題について)がされ、意見交換がなされた。飯田指導員からキキョウのマルチ栽培について提案、和田指導員からキキョウ栽培体系についてのマニュアル作りの提案があった。
- ・参加者：協会側：17人(藤井会長、末次専務理事、栽培指導員)
自治体側：16人(八峰町、美郷町、新潟市、岐阜市、高浜町、杵築市)

■ 4号事業 生薬、薬用植物等に携わる人材の育成に関わる活動

1) 薬用植物指導員認定者のフォローアップ研修 (学術委員会)

既認定指導員を対象に、より実践的に薬用植物に関する説明や案内ができるよう、さらに協会活動により積極的に協力頂くようフォローアップ研修を実施した。

① ケシの見学・研修

東京都薬用植物園ケシ柵内での見学、研修室での座学研修

- ・開催日：平成30年5月17日(木)
- ・参加者：14名

② 昭和薬科大学 薬草教室に参加

- ・開催日：平成30年9月15日(土)
- ・参加者：9名

■ 5号事業 その他、本会の目的達成に必要と認める事業

■ 共益事業

主に会員向けに行われる事業で、会員の親睦や情報交換を図る目的で実施した。

1) 賀詞交歓会の実施 (事務局)

- ・開催日：平成31年1月28日(月)
- ・会場：神田明神・明神会館
- ・出席者：127名(対前年比117%)

2) 薬用植物生け花展・標本展の実施 (事務局)

「薬と健康の週間」(東京都)行事の一環として、主催の薬祖神奉賛会に協力して実施した。

- ・開催日：平成30年10月17日(水)
- ・会場：昭和薬貿ビル2F直会会場
- ・2階直会会場に出展した。(3社、5人)イワキ株、興和株、草屋舎
- ・出展：薬用植物説明パネル及び種子標本を展示した。
- ・参加者：2,845名(対前年比113%)

3) MCMIA(現代化中医薬国際協会)との交流 (事務局)

- ・平成30年8月に香港で開催された展示会ICMCMで東京都薬用植物園、薬用植物国内栽培事業のポスターを掲示し、先方幹部との情報交換を行った。
- ・訪問先：ICMCM展示会場、衛生局訪問

II. 総会、理事会、委員会等開催

総会	2回	6月	3月			
理事会	2回	5月	3月			
会計、業務監査	1回	5月				
総務委員会	2回	4月	2月			
総務規程WG	5回	7月	8月	10月	11月	12月
薬草収穫感謝の会 WG	2回	9月	10月			
学術委員会	5回	4月	6月	10月	12月	2月
広報委員会	4回	5月	8月	11月	2月	
事業管理委員会	4回	4月	9月	12月	2月	
薬用植物国内栽培事業委員会	3回	4月	11月	2月		

III. 会員数及び入退会

1. 会 員：136名
2. 期首会員数：137名
3. 期末会員数：136名
4. 入 会（7件：法人正会員1件、個人正会員3件、サポーター3件）
法人正会員：健興通商(株)
個人正会員：福田達男、小西 淳、安田一郎
サポーター：3名
5. 退 会（8件：法人正会員1件、個人正会員1件、サポーター6件）
法人正会員：エア・ウォーター(株)
個人正会員：川目正良
サポーター：6名
6. 変 更（個人正会員⇒サポーター）：北川重美

以 上